

ヨウ素剤配布始まる

原発5キロ圏 高浜町民7953人に

県は31日、関西電力高浜原発の約5キロ圏で暮らす3歳以上の高浜町民7953人（3116世帯）に安定ヨウ素剤の配布を始めた。12月17日までに町内6会場で住民説明会を13回開いて配り、家族の代理人が受け取る（JALもじま）。

敦賀原発や大飯原発、美浜原発などから約5キロ圏の住民計2207人（825世帯）にも年内の配布を目指すとしている。（大久保直樹）

この日は旧音海小中学校

体育館で説明会があり、約60人が参加。医師らが甲状腺被曝を防ぐ効用や服用方法などを説明し、事前に郵送されて記入済みの問診票に沿って病歴などを確認しながら1人ずつ薬剤を手渡した。音海地区の主婦（43）は「副作用など子どもへの影響が心配。事故が起こればパニックになりそうだが、しっかり服用の指示を

確認したい」と話した。3〜12歳は1錠、13歳以上は2錠。薬剤の有効期限は3年間。1人分ずつ容器に入れて名前や年齢を記し、ふたは3〜12歳がピンク、13歳以上が青と色分けされている。服用のタイミングは国が判断し、県や市町が伝達する。3歳未満は事前配布せず、優先的に避難。必要があれば避難途中に液状の薬剤を配る。



問診を終えて安定ヨウ素剤を受け取る住民＝高浜町の旧音海小中学校